

「地域の特性を生かした豊かなまちづくりについて」

1. はじめに

近年、多くの地域において地域再生や住民参加を掲げたまちづくり活動が活発になっている。地域住民が自分たちの住んでいる街を見直し、魅力を再発見するということは大変意義深いものであると考える。最近では、地域検定やご当地ブームなどにより地域を盛り上げる企画や観光産業等が多くの地域で振興している。しかしながら、実際には地域の活性に繋がっている場合とそうではない場合があるのではないだろうか？特に最近多いと感じるのが、街の郊外における大規模なショッピングモールなどの商業施設の建設である。多くの客が一気に集まる一方で、地域の交流の場でもあった商店街などが衰退しているという現状も多い。また、出来上がってしまったら修正が効かないという場合も多く、地域づくりの方向性を事前にしっかりと定めなければならないと考える。

つまり、地域活性のまちづくりにはハード面だけではなく計画段階とその後の状況を踏まえた修正および維持管理などのソフト面が重要ではないかと考える。また、広い視野と長期的な視点を持ってまちづくりに臨んでいく必要がある。

2. 提案内容

まちづくりにおいては、地域住民主体で計画・実行していくことが重要である。また、地域によって制約や条件が制限されるため、地域に合った施策を実施していかなければならない。魅力あるまちづくりには、多くの人に訪れてもらうための観光政策も大切であるが、地域住民にとっても住みやすく、親しみを持てるように実施することが求められる。重要な視点として、以下のことを挙げる。

1. 自分の住んでいる街・地域を知る、楽しむ
⇒ 街や地域の特徴を把握し、アピールポイントを探る！
2. 歴史・文化や自然・景観などを守りつつも、既成概念にとらわれない
⇒ 地域性を喪失させず、変化する！
3. コラボレーションとグローバルゼーション
⇒ つなげていくことが重要！

市街地郊外における大型商業施設の建設に際しても、地域色の濃い施設を目指し、一体となったまちづくりの考え方が大切である。最近では、緑地やランドスケープ、バリアフリーへの対応は進んできているが、地元地域との関わりが今ひとつであると考ええる。長期的な視点からも、今後は相互の積極的な関わりが重要視されてくるのではないだろうか？例えば、農林水産物などの地域ブランド（地方）と企業活動（都市）を結びつけることが挙げられる。また、設置計画の際、地域との共同プロジェクトの提案も必要な審査条件としてはどうだろうか？また、観光政策面からも今後は「国際化と滞在型」が進んでいくと思われていることからそういった時代の状況にも対応する姿勢が求められる。